

授業カブラッシュアップ®研修会②



言語活動の充実といわれますが、実際の学習の中で、どのような言語活動を位置付けることがよいか、また、どの場面で位置付けるとよいのか、授業カブラッシュアップの6つの提案授業を通して、具体的に学ぶことができました。

また、6つの講義・演習からも、今後の授業に生かせることが数多くありました。

小学校 外国語活動

児童がいきいきと活動する外国語活動の授業について

(1)提案授業

Lesson5「Let's go to Italy.」

授業者：一関市立油島小学校 教諭 高橋陽子

助言者：県南教育事務所 指導主事 山崎健志

★学級担任ならではの良さ

- ・子どもたちが生き生きと活動していました。普段から一人ひとりのよさを認め、ほめながら指導している高橋先生の学級経営のよさが表れていました。
- ・活動内容が子どもたちの興味関心をひくものになっていました。子どもをよく知っている学級担任にしかできないことです。

★ALTとのTT

- ・授業の主導権は授業者が握っていました。役割が明確で息のあったALTとの授業でした。
- ・学級担任が、事前に役割分担を考えておくことで、短時間での打合せが可能になります。

★学習形態の工夫

- ・1学級10名でしたが、個人、ペア、グループ等、学習形態を工夫し活動内容を変化させることで45分間、意欲的に授業に臨んでいました。

(2)講義・演習

「外国語活動指導主事上の留意点について」

講師：岩手県教育委員会 主任指導主事 小野寺哲男

★難しさの体験を

- ・場面や状況に応じて、その時の自分の最大限の言語でコミュニケーションすることが大切です。伝わった喜びを味わわせるようにしましょう。

★ほんの少しの工夫を

- ・教師が目的意識をしっかりもって、ゲームを行わせること。提示の仕方をちょっと工夫するだけで、子どもの姿が変わります。
- ・相手意識をもたせたコミュニケーション活動を通して、言葉に思いをのせることが大切です。



中学校 国語科

生徒が古典に親しみをもつための単元構想の工夫について

(1)提案授業

「昔話の元になった作品を紹介しよう」

授業者：奥州市立水沢南中学校 教諭 太田和成

助言者：岩手県教育委員会 主任指導主事 紀修

★単元構成のよさ

- ・現在の昔話と元になった古典作品との比べ読みをする授業は、小学校との連携を意識した古典学習の導入として、価値がありました。
- ・言語活動を通して付けたい力を紹介カードの要素にすることで、必要な力が付く構成になっています。

★本時について

- ・前時の生徒の感想から、本時の課題が導かれています。
- ・紹介カードや交流のモデルが、授業の中で活用されています。
- ・「引用」を使って紹介文を書く活動は有効です。
- ・古典作品のおもしろさとは何かを、交流を通して確認し、個々の紹介文にすることも大切です。



★単元のゴール像

- ・学級の中に閉じるだけでなく、図書館への掲示、小学校への紹介など、目的意識・相手意識を明確にして学習を進めることも、意図したい内容です。

(2)講義・演習

「古典学習の単元づくり」

講師：県南教育事務所 指導主事 内川千亜希

★単元づくりで気を付けること

- ・どんな力を身に付けるかを明確にした上で、単元を貫く言語活動を位置付けましょう。

★3領域1事項と古典の単元づくり

- ・「伝統的な言語文化」だけを取り上げる場合と、3領域と関連付ける場合とがあります。
- ・評価規準について、どの項目を、どの規準で評価するかを吟味することが大切になります。
- ・生徒が、主体的に見通しをもって、課題解決に取り組める授業を目指しましょう。